

議会運営委員会会議録

招集（開催）年月日	令和2年1月7日（火）	
招集（開催）場所	岩美町役場 第1委員会室	
出席委員	田中委員長、寺垣副委員長、澤委員、杉村委員 足立議長、柳副議長	
欠席委員	なし	
職務出席者	西垣町長、長戸副町長、寺西教育長、平井病院事業管理者（新年挨拶） 鈴木議会事務局長	
開 会	午前10時00分	
記 録 者	議会事務局 前田書記	
審 査 事 項	別紙日程表のとおり	
審 査 の 経 過		
日 程	発 言 者	内 容
開会	田中委員長	*起立、礼 新年おめでとうございます。 ただ今から議会運営委員会を開会する。 町長よりあいさつ願いたい。
あいさつ	西垣町長	あけましておめでとうございます。 旧年中は皆さまに大変お世話になり、議会運営にご尽力いただいたことに感謝申し上げます。 昨年は全国各地で自然災害があった。岩美町は幸いなことに大きな被害もなく、過ごさせていただいた。正月も天気が良く、穏やかな災害のない年となればと思ったところだ。 今年の子年で、十二支のサイクルのスタートの年だ。岩美町政が一步でも前進するよう、執行部、職員一丸となって努力したいと思っている。例年にも増して、皆さま方のお力添えをお願いできたらと思うところだ。本年も、引き続きよろしく願い申し上げます。
	田中委員長	足立議長。
	足立議長	改めて、おめでとうございます。 執行部の皆さまには、昨年は大変お世話になり、お礼申し上げます。我々議会も昨年からはあらゆることに、議会改革を含めて取り組んできているつもりだ。早くこのような状態から脱出して、将来の岩美町、町民のことをもっともっと考えられるような位置に立ちたいと思っている。そのような年となるよう頑張っていくので、よろしくお願いする。
	田中委員長	それでは、協議事項に入る。
	西垣町長	委員長、せっかく来ているので、一言ずつごあいさつさせていただいてよろしいか。
	田中委員長	失礼した。はい、副町長。
	長戸副町長	本年もよろしくお願いする。 昨日は仕事始めということで、議長にもおいでいただき、職員

		<p>を集めて仕事始め式をさせていただいた。異例の職員の不祥事に対するご指摘もいただく中で、今年はそのようなことが起きないよう、職員一丸となって町民皆さまの信頼回復に向けた取り組みを進めて参りたい。</p> <p>西垣町政がさらに前進して、町民の皆さまに「岩美町に住んでよかった」と思ってもらえるような町政運営に努めて参りたい。引き続きご指導、ご鞭撻よろしく願います。</p>
	田中委員長	教育長。
	寺西教育長	<p>あけましておめでとうございます。</p> <p>正月に、箱根駅伝の中央大学の9区を、大森太楽（おもりたいら）君が、ついに走ることができた。彼は、高校時代に出身校の岩美北小学校で、「自分は大学に進学して、3年生のときには箱根を走りたい」と言っていたのを、よく覚えている。それが実現できた姿を見て、教育というのは本当に難しい仕事だなあと改めて思っていることと、夢というか、種をまくというか、そういうことはしておかなければいけないのだなあと、決意を新たにしました。</p> <p>町長以下、「町民の」ということを言われた。子どもたちの将来や、地域の社会教育活動が充実するよう努力したい。ご指導、ご鞭撻をよろしく願います。本年もどうぞよろしく願います。</p>
	田中委員長	病院事業管理者。
	平井病院事業管理者	<p>あけましておめでとうございます。</p> <p>病院についてはご承知のとおり、去年は公立病院の再編・統合の問題があった。併せて、年末には職員の不祥事ということで報道等も出て、ご心配とご迷惑をおかけしたところだ。</p> <p>またその中で、12月議会では、病院の再編・統合についての意見書提出を議決していただき、担当部署として後押ししていただき、大変感謝している。この問題については、新年においても病院で取り組む大きな問題だ。しっかり国に申して参りたい。また議会からもご支援賜るよう、よろしく願いたい。</p> <p>町長も申したが、子年、十二支の最初の年だ。スタートの年ということで、新たな気持ちで取り組みたい。寝ずの身で、寝ずに仕事するという心構えで、取り組まなければならないのではないかと思っている。ご支援賜るよう、よろしく願います。</p>
	西垣町長	委員長、我々は退室させていただく。
		※執行部退室（10:07）
協議事項 (1)	田中委員長	<p>本日の協議事項に入る。</p> <p>(1) 令和2年度の議会関係予算要求案について、事務局長説明を願います。</p>
	鈴木議会事務局長	<p>資料のP1から説明させていただく。</p> <p>【予算内容等説明】</p>

		<p>参考資料として、7ページ費用弁償表、8ページ費用弁償を伴う会議回数、9ページ人権研修会関係、10ページ、11ページ左は共済通知文、11ページ右は県議長会分担金、12ページは東部町議長会負担金の通知文を掲載させていただいている。13ページから16ページは、岩美町の令和2年度の予算編成方針を載せているので、あとで確認していただきたい。</p> <p>※資料P17、元年度分3月補正について説明資料についての説明は以上だ。</p> <p>特別委員会、常任委員会等の会議録作成については、現在事務局職員が要約筆記で作らせていただいている。これについては、音声データを自動的に文字化するシステムの研究をさせてもらいたいということで時間をいただいているが、大変長くなっており、申し訳ない。このシステムを効果的に運用しようとする、音声データをきれいに録音する必要がある。今使っているICレコーダー等ではなかなかうまく変換できないということで、マイクの設備を研究しているところだ。一番よいのは一人ずつにマイクがついて、その方の発言を録音できるのがよいが、これにすると、会議を開く部屋もたくさんあり、そのたびにマイクの線を替えるとか、とても煩雑になるし、ではずっと常設するかというと、それも大きな経費がかかる。では無線にしたらどうかということがあるが、無線も周波数等の関係があり、設置するマイクの本数が限られることもあり、もう少し研究させていただきたいと思っている。一本のマイクを発言者に回してするのが一番安価で確実だが、その辺になると議会運営にも影響してくると思う。もう少し研究させていただきたい。以上だ。</p>
	足立議長	<p>今局長が中身について説明したが、あえて私から指示した点が一点と、もう一点皆さんに考えていただきたいことがある。</p> <p>3ページの人権学習等の旅費と、6ページの負担金だ。局長と打合せをしたが、人数に根拠がない。ほかの研修にも行きたいという要望、希望もある。今後、人権・部落解放研修については必要なものは存続させていただきたいと思うし、ただ、協議の中でもう必要ないのではないかというものについては、今後ゼロにする可能性もあるということ相談したいと思う。</p> <p>もう一点は、議長交際費をあえて例年どおり65万円としているが、以前から町長交際費もいろいろな議論があるように、それなら議長交際費の中身についても、皆さんに知っておいてほしいということをあえてお願いしておく。</p>
	田中委員長	知っておいてほしいというのは。
	足立議長	中身と使い方について、私も1年間過ぎたので、65万円が適正なのかということをお皆さんにも見ておいていただきたい。
	田中委員長	俎上に載せるということか。
	足立議長	したほうがよいかということだ。
	田中委員長	交際費について議長から提案があったが、それを改めて今の時

		点で検討して・・・。
	柳副議長	支出項目の制限でやればよいと思うし、改めてここで議論することはないと思う。
	足立議長	他町村はゼロの議会もある。「なんでお前のところはあるのか」とか言われるし、もちろんあるところもある。あっても智頭町のように15万円の低いところもあるし、岩美町レベルのところもある。私も前任者と同じようにしている。今日この場でとは言わないが、議会も検討したほうがいいかもしれないということを皆さんに言うておく。
	澤委員	交際費については、費目が町村によってばらばらだ。
	田中委員長	実質、交際費にあたるものかということか。
	澤委員	そうだ。すべて交際費で出ているわけではない。例えば、負担金とか何かの形で出ているところもある。あまり比較しないほうがよい。比較しにくいのではないか。
	足立議長	ただ、そうだけでない部分もある。よそがということではなく、「今までどおりでよい」ということならよいし、ただ、いろいろなことを感じる部分があるので、皆さんのほうでも一回は見ていただいて検討する場を、この場とは言わないが、どうですかということで、皆が「よい」と言えば、それはそれでよい。
	澤委員	目を通すかというだけのことでしょう。
	田中委員長	杉村委員、どうか。
	杉村委員	その話をするということになる、今年度の補正のことを聞かせていただかなければならない。全額支出という見込みでよいのか。
	鈴木議会事務局長	12月末を基準に、執行済み額を計上させていただいている。今後については、どういった事案が発生するかにもよると思うが、予備費があるわけではないので、このまま持たせていただきたいと考えている。
	杉村委員	交際費なので、支出の不透明さは当然あるが、前年度の町長交際費も、予算の半分以下しか支出していない。私個人としては、あまりにもみっともない支出状況になってはならないと思う。現在、議長が心配している支出の状況を皆さんに見ていただきたいお気持ちは分からなくはないが、それは今の支出基準に沿って支出しておられると思っているし、公開もされておられるし、そのことを各議員なり、ここの委員が改めて確認する必要は、私はないと思う。ただやはり、予算と決算であまりにも不用額が多くなるような予算については、どうかということ懸念している。したがって今事務局長に確認したところ、確かに「不透明感があるということが残している」ということのようなのだが、補正もできるのだから、当初予算として少し絞り気味にしておいてもよいのではないかと思う。
	田中委員長	副委員長、どうか。

寺垣副委員長	議長のお考えで、岩美町がさらに発展していけるように使っているかと思っっている。例えば、今年は半分しか使っていないからどうか、来年は65万円全部使ったからどうかという話ではなくて、65万円あって、議長が考えて使われるべきだと思うので、このままでよいと思う。
澤委員	年によって内容が変わっていていると思う。前年がどうだったかというのではなく、今までも、支出に関しては議長判断に任されている。内容は変わるし、前年のことを考えなくても、今ある想定内の金額を出しておいて、その中で議長判断で支出されればよいと思う。
田中委員長	確認だが、支出費目との関連のことが澤委員からあったが、議長交際費から出す以外に議会として対外的に支出するもの、交際の範ちゅうにくくってくれないような費目は議会にはないな。例えば、視察の訪問先に手土産とか、そういうものは議長交際費から出しているな。
鈴木議会事務局長	はい。
田中委員長	議会として行動する場合に伴って出る費目は、ほかにはないだろう。対外的なことという、全部が議長交際費からの支出ということに陥っているな。
鈴木議会事務局長	はい。対外的に必要な経費はそうだ。
足立議長	ない。
鈴木議会事務局長	香典とか、ほかから出しようがない。視察先への土産とか、あとは新聞広告等がある。
田中委員長	それも議長交際費から出ているだろう。
鈴木議会事務局長	はい。
田中委員長	事業課みたいに事業に絡んでみたいことは議会にはないから、そもそも出しようがない。だからすべてが議長交際費からの支出になっていると思う。議長が他議会との関係を考えておられて、何が削れるかを考えながらされていると思うが、具体的にこれはもうやめたほうがよいとか、迷ったときには相談してもらおう。
足立議長	私がなぜ今日こんなことを言ったかというのは、新聞広告を一つとっても必要なことと、必要でないことを局長とよく相談しながらやってきているつもりだが、我々の判断だけでなく、どうだろうかと後ろを振り返ることが時々あるので、このようなことを言っているだけだ。町内でも言ってくる団体にはするし、言っただけでこなかった団体にはしないのかということで、絶えず悩んでいる。言っただけでこなかったら、それなら金一封包まなければいけないのかとか、言っただけでこなかったところにはしなくてもよいのかとか、本当に絶えず悩んでいる。
澤委員	言われるように、振り返った場合に「ああしたらよかった」ということが出てくると思う。だから、そのようなことがあるのだ

		から、少ない金額を設定したらよいということではなく、今決まっている予算を設定しておいて、我々が選んだ議長が岩美町のために、議会のために出されたらよいと思う。
	足立議長	皆さんにも、どこかで中身を見る機会を持ってほしいということだけだ。
	田中委員長	議長の気持ちを受け止めて、そのような目で見たい。以上で、交際費については終わりたい。 最初の、部落解放・人権同和関係の派遣の人数を二人から一人にしたことについて、いかがか。 局長、これはそもそも主催団体から岩美町議会に来るものか。それとも岩美町に来て、岩美町として議会で、町長部局で、民間団体で、みたいな割り振りをしているのものか。その辺はどうなっているのか。
	鈴木議会事務局長	議会に案内がくるのは今教育委員会が担当しているが、教育長から議会あてに案内が届いて、申し込みをしている。
	田中委員長	主催団体から直接ではないな。
	鈴木議会事務局長	直接ではない。
	田中委員長	人数を考えたり、派遣するかしないかを判断する際の材料になるかだ。主催団体の意思としてなのか、それを受けた岩美町なり、教育委員会なりの判断なのか。
	足立議長	何もそういうことは考えていないと思う。ただずっと来ているから、他町村はどうかということも含めて、ここをいろいろみたらということで、私のほうから局長に言った。もっとほかの研修にも、予算の枠の中で使ったらという思いがあった。たったそれだけのことだ。「元に戻せ」ということなら、元に戻す。
	田中委員長	人数については、具体的に「二人お願いします」とか、そういうことはないのか。
	鈴木議会事務局長	ない。
	田中委員長	要するに、議会が議会として判断すればよいという性格のものだということは、はっきりしているわけだな。
	鈴木議会事務局長	そうだと思う。全国レベルのものが三つと、鳥取県のもの、四つの研修会に議会が参加するということを決めて、それについて教育委員会から案内をいただいていると思っている。ちなみに、議長からも指示があり、ほかの町の人権関係の研修会について尋ねたところ、中には、議会の中に同和問題の特別委員会を設けてやっているところもあるようだが、そういったところでも参加費については、執行部が対応しているようだ。同和教育研究集会という、そういった任意の団体が町にあって、そこから案内が来て、それぞれの議員が個人で参加されると。地元の組織に入っておられて、そこから費用が出たりするものもあつたりするようだ。議会が直接、経費をみているところは東部ではなかった。
	田中委員長	議会が独自で判断すればよいという面から言うと、東部のほか

		の町よりよいかもしれない。
	足立議長	岩美町は異例だ。
	田中委員長	岩美町は異例だが、その面だけから見ればよいのか。独自に判断できる面から見れば。歴史的に見れば、前年実績でいっていると思う。鳥取県の研究集会などでは、たぶん6、7年前くらいからだと思うが、分科会も部落解放とか、部落差別というのがなくなった時期があったが、何年か前に資料を見る機会があり、すべての分科会の頭に部落差別というのが付いており、びっくりしたことがある。我々が知らないところで、行政があまり気にしていないようなところでも、行政としてお金を出してやっていることなので、本当は議長が言われるように、一つ一つよく見て精査しないといけない。公金支出の問題だ。一人にすることについて、どうか。
	寺垣副委員長	議員が一人というだけで、教育委員会の皆さんが別に減るわけではないな。
	鈴木議会事務局長	これは今、議会が独自に減らそうと検討しているところだが、ほかのところかどのような検討をしているかは承知していない。担当の教育委員会は、一人は行かれると思う。
	田中委員長	澤委員、いかがか。
	澤委員	一人でよいと思う。ただ、いつも事務局が人選に苦勞している。やはり、行くならきちんとローテーションを組んでおかないと、まったく行かれない人もおられる。議会で行くのだったら、皆が行くようにしなければいけない。
	田中委員長	議会の予算で計上するわけだが、議会から一人は出すということ、そもそも決めたのかどうかという話だ。「行きたい」と言う人がなければ、それはそれでありではないかと思う。
	柳副議長	それぞれに観点が違うところもあるが、私としては、全部行きたいくらいだ。そのような議員もおられるので、町とも足並みを揃えないといけない部分もあると思う。議会は必要ないというが、向こうは必要あるということになると思うと、同じ岩美町の取り組みとして、不都合を生じる可能性もある。1名減ということは、実施されればよいと思う。ただ、私としては、残していただきたい。行く人がいないというなら、私が全部行く。
	足立議長	いろいろな研修会等、新しいのがどんどん出てきている。議員によっては「これに行かせてほしい」、「あれに行かせてほしい」という方もおられる。せめて、2を1に減らして、1の部分の予算をほかにでも回せるような形にしたいという意図だけで、これをなくそうとか、減らそうということではない。ただ、世の中がどんどん変わってきているので、変わってきていることに対応するために、どうしてもないときは下に降りて、何とか頼むと言っている。実際財政に行って頭も下げている。できる限り、ある予算の中で新しいことにも対応できる体制を、少しずつつくってお

		いたほうがよいのではないかとということだけだ。これをまったくなくそうという気もない。ただ、どこかで新しいことにも順応できるような体制づくりだけはしておきたいという気持ちで、提案しているだけだ。
	田中委員長	一人の予算とすることについては、「増やせ」ということも、「なくしてしまえ」ということもないようなので、議長の意思を生かそうと思ったら、この度は、セミナーを12人分にしたということもある。一般質問の研修も、昨年に引き続いて2年度も計上することになっている。そういうところに支出していると受け止めている。ということで、ここはよいか。
	杉村委員	一人については、よい。 3ページのところで言うと、一般質問の講師謝金をしていただいているが、昨年の実施効果がないということと、検証もされていない。そして、仮にこれを行ったとしても、講師に対して失礼だと思う。2年度の15万円は、必要ないと思う。 議員セミナーを12人分はよいと思うが、議会活動の在り方検討特別委員会（*以下、在り方委員会）の中で議会改革の協議がなされているが、大津の研修に参加した感触からいうと、岩美町で議論されている内容は、本当に二けたくらい違うということから、想定されているセミナーは、どういったものに参加を考慮おられるのか。
	田中委員長	どういったものに参加を考慮おられるかというのは。
	杉村委員	議員セミナーは、予算とか決算とか、いろいろなセミナーがある。それぞれに参加すべきと思うが、現在、在り方委員会として議会の在り方を協議されている中で、大津での研修の内容と、岩美町議会での内容の格差があまりにもありすぎる。この12人が一泊二日で研修する21万円は、議会改革の参加を主にするということを想定すべきなのか、それとも、それ以外の予算とか、決算とか、どういった21万円にしようとしているかが、私には分からない。
	田中委員長	関係ない。なぜ、そんなに関連付けなければいけないのか。
	杉村委員	では、何のための21万円か。
	田中委員長	勉強だ。「行きたい」という人があって、今まで4人分しか予算を組んでいなかった。もっと予算を組めればよいと思うが、全員が「行きたい」と言えば、せめて1回は応えられる予算をということで、私も局長に意見を述べた。
	杉村委員	分かった。ここのセミナーの、私の意見としては、申し上げているとおり、新年度も議会改革のセミナーがあると思うので、それを中心に想定した参加費であるべき予算にすべきではないかと思う。
	田中委員長	それは、杉村委員が決めることではない。
	杉村委員	だから、意見だ。

	田中委員長	<p>「もっと明確にせよ」という趣旨なので、それは違うのではないかということを行っている。</p> <p>それと、議会改革のことを言われたので言うが、議会改革の最終到達は、形ではない。一人一人の議員の力が向上して、さらに言えば、議員は4年で替わるので、可能性から言うと、全員が替わる可能性もある。そんなことは実際ないだろうが、大きく替わったとしても、継続してやっている議員を見て、そういう人たちから次に入ってくる人たちが学ぶというようなことが、言ってみれば伝統みたいな、あるいは、岩美町議会の気風みたいなことになるところまでいくのがよいだろうと思う。やはりそれにならないと、いくら形を変えても、魅力ある議会にならない。一人一人の議員力を向上させるということにつながるということを、一人一人が考えて研修を受けると思う。何を受けるかは、それぞれが判断して行動してもらえばよい話だ。「議会改革に特化しろ」みたいなことは、議会改革ではなく、中身だということだ。</p>
	足立議長	<p>ここに12人と書いてあるが、12人全員にという意味だけでなく、一人が2回希望する人もあるし、3回希望する人もあるし、必要ならばそれも了らる。ただ、先ほどから言うように、新しい研修は年間を通してあり、「行かせてもらえないか」という議員がおられる。さっきの15万円にしてもそうだが、おられなければなくてもよい。必要なければ、やめればよい。だけど、やはり予算は持っておきたい。これはこの場ではふさわしくない、予算を議論する場で、こんなことを言うのは本当はよくないことかもしれないが、皆さんの意見を事務局も私も聞いて、聞いた以上は行ってもらいたいし、してもらいたいし、そのための予算は、それならどこでどうひねり出すかということが現実だ。言われるように、必要ないなら必要ないで、落とす。だけど、皆さんだけでなく、ほかの何人かの議員も、年間を通して「私をこれに行かせてもらえないか」という要望もある。できる限り応えられるようにしたいと思うが、そのときに予算がない。この場にふさわしくないことを言っているが、そのように皆さんが思われるのであれば落とせばよいし、その代わり、ないものはない。今、ある程度確保しておかないと。そのことも理解していただきたい。それで、ある程度柔軟に使えるようにしておいたほうがよいという思いもあるので、そのような予算の組み方をしている。まあそのあたりで、必要ないなら落としても結構だ。その代わり、はっきり言う。ないものはない。回せないものは回せないということも言わせていただく。ここにおられる6人以外の6人の議員からも、年間を通していろいろな要望が出てくる。できる限り対応してあげたいと思うので、このような予算の取り方になっていると思う。必要ないなら落としていただきたい。結構だ。</p>
	田中委員長	<p>「講師に失礼なので、15万円を落とせ」というのがあった</p>

		が、どうか。それこそ、講師にではなく、我々議員に失礼だと思う。その言い方は。
	柳副議長	この15万円については、発言された杉村委員はいろいろな事務経験もお持ちだが、新しい方は特に、一度で結果が出るようなことではない。講師の先生も一度教えたからと言って、とびぬけて上達するとは思っていないと思う。研修の積み重ねで実績を上げていくもので、中長期的に、長い目で見なければいけない話だ。もし、12人全員が「これは必要ない」ということになれば落とせばよいが、新しい議員に私も伺う中で、大半の人が1回でなく、2回、3回と勉強したいという意思を持たれている以上は、在ってしかるべき予算だ。一度講師に研修を受けてできるようなことではないと思う。自分を基準に考えず、12人全員で対応した場合にどうだということで、この予算は考えられないといけないと思う。新しい議員は、もっともっと一般質問について研修を受けたいという意思を持たれている方が、多分に居られると私は感じているので、ぜひともこの15万円は残していただきたい。
	寺垣副委員長	変な言い方かもしれないが、よそに行かなくても一般質問の研修を受けられる、例えば、滋賀県に行けば一般質問以外の研修も受けられると思う。なので、自分のための向上ということを皆が思うのだったら、一般質問の研修の講師謝金というのは、いると思う。
	田中委員長	発言力一般だ。議会で大事なものは、発言する力だ。この研修は、意見を言ったり、質疑をしたりすることにつながる話で、向上につながる話で、やり方もさまざまあると思う。昨年2回やったが、2回とも講義を聞くものだった。それを少し広げたようなやり方を土山教授はされたが、よそではもっと違ったやり方をしている。そういうことも考えれば、さらにいっそう身に付く研修だってあり得る。我々はまだ途上だ。1回、2回で効果が表れていないと断定せずに、努力を続けることが必要だと思うので、ぜひ今年も確保して、いっそう実が上がるようなものにしたいと、私は思っている。 澤委員、いかがか。
	澤委員	それでよい。何も言う必要はない。受けたらよいと思う。
	杉村委員	皆さんの意見もあるが、私としては、この15万円は実施効果がなくて・・・。
	田中委員長	その「効果がない」とは、どういうことか。
	杉村委員	私の意見だ。
	田中委員長	失礼だろう。効果がないというのは、では、あなたにも効果がないということなのか。
	杉村委員	委員長の言い合いの場ではない。
	田中委員長	言い合いではなくて・・・。

	杉村委員	私の意見を申し上げさせていただきたいが、ここのところは、私としては反対だ。
	田中委員長	反対の理由が「効果がない」というのは、ほかの人に失礼ではないかと、私は言っている。言い合いの話ではなくて。
	杉村委員	議員セミナーに関しては、ある程度の手持ちを持ちたいという理解をさせていただく。これについては、このままでよいと思う。
	田中委員長	言い合いをするつもりはないが・・・。
	足立議長	委員長、進行しよう。
	田中委員長	「効果がない」というのは、ほかの議員に大変失礼な話だと思う。ということだけは、考えていただきたい。 では、進行する。ほかのものではないか。
	杉村委員	4ページ、職員研修等旅費の行政調査視察（随行）、二人分の20万円。私は以前から思っていたが、議員の研修に事務局職員が随行するということについては、やはり議員は自立して研修していくべきだと思っているので、ここは削除すべきという意見を申し上げさせていただく。
		※「行政事務調査だで」との声あり。
	田中委員長	これは、行政事務調査の随行だ。
	杉村委員	はい。
		※「職員は行かなくてよいという意味か」との声あり。
	田中委員長	「我々は子どもじゃないから、ついてこなくてもよい」という意味か。雑ぱくに言うと。「議員は大人だから、職員についてきてもらわなくてもよい」というふうな意味だ。
	杉村委員	議員は自立して行政調査をしていくべきだと思っているので、事務局の方に随行していただかなくても、議員だけで・・・。
	田中委員長	だから、「我々は大人だからついてこなくてもよい」ということか。
	杉村委員	そんなことは言っていない。
	田中委員長	世間的に言うと、そのような意味だ。
	柳副議長	一点、申し上げてよいか。 行政事務調査は議員個人で行くのではなく、あくまでも常任委員会としての事務調査だ。議員個人、一人が優れているということではなく、その所管の範囲内で行く視察に同行して、その職員にも勉強していただくことも必要なことだと思う。
	杉村委員	今の副議長の話で、ここの行政事務調査の二人というのは、事務局職員の方の話で、例えば、今年の総務教育常任委員会の調査のように、企画財政課長が行く部分ではないわけだ。総務教育常任委員会の調査に、企画財政課長が随行するのは行政が考えられることであって、ここで議論しているのは、事務局職員の方に随行していただくことまでは、私はすべきではないのではないかと意見を、今申し上げている。

	柳副議長	杉村委員、私が言っているのはそういうことではなくて、所管を受け持っている事務局職員として対応していただくことも、当然常任委員会6人をもつての調査なので、杉村委員はスーパーマンで、一人で何でもできるかもしれないが、やはり6人がワンセットという常任委員会の行政事務調査の対応を考えられたほうがよいと思う。
	杉村委員	ほかの委員の意見を聞いて進めよう。
	田中委員長	進めるが、議論することは議論しなければならない。議会事務局の職員を、ただの事務手伝いだというふうに認識しているということだ。
	杉村委員	それは、委員長の言われることだ。
	田中委員長	いやいや、あなたの言われることを言うと。
	足立議長	ちょっと休憩しよう。
休憩 再開	田中委員長	休憩する。 11時18分 休憩 再開する。 11時27分 再開
	田中委員長	職員研修等旅費の20万円について、ほかにはないか。
	澤委員	このままでよい。
	寺垣副委員長	このままでよい。
	杉村委員	はい、進行しよう。
	田中委員長	このままとする。 ほかに。
	杉村委員	昨年も言ったが、5ページの日本海新聞だが、購読する意味が分からない。全議員が自宅で取っておられると思う。購読する意味が分からないので、削除すべきだ。
	田中委員長	いかがか。
	足立議長	新聞がいけないのか、日本海新聞がいけないのか。 杉村委員、どちらだ。
	杉村委員	日本海新聞は、みんなが取っていると思っているし・・・。
	足立議長	それなら、ほかの新聞ならよいのか。
	澤委員	新聞を取るなということか。
	杉村委員	日本海新聞は唯一の郷土紙であるし、取るなら日本海新聞だろうが、ただ、すでにもう、岩美町中のほとんどが取っておられると思う。改めて議会事務局に置いておく必要が分からない。
		※個人でのやりとりとなり、聴取不能。
	澤委員	でも、まだ日本海新聞は100%ではない。やはり、地元紙は地元で育てていかなければならない。
	田中委員長	地元紙を育てるということだな。 副委員長、いかがか。
	寺垣副委員長	うちにも日本海新聞はあるが、時間がなくて読めないこともある。ここにきて読めるのはありがたい。取り続けていただけたら

		と思う。
	足立議長	杉村委員の言われることも一理あると思う。確かに私も日本海新聞を取っていて、朝起きたら1時間くらいかけてべったり読んで、それから来る。ただ、ここから先言ったらいけないことかもしれないが、それをあえて言うが、ここに朝日新聞や、毎日新聞や、産経新聞を、地元紙の日本海新聞を置かずに、プラスを置くなら理屈として通るが、そういうことかなと思っているのが私の現実だ。鳥取県に所在している岩美町の議会として、ほかの新聞を置くわけにはいかないだろう。これは現実論だと思う。
	杉村委員	皆さんの自宅にあって読めるわけなので、それをあえて公費を使って取る必要はない。
	澤委員	今言われるのは、新聞を置くなということか。
	杉村委員	日本海新聞の購読に公費を、あえて出す必要は認めがたい。
	田中委員長	置くということもいろいろな見方があるし、置かないということにも、議長が言われるように、それはそれで私も一理あると思う。置くということについては一律ではないが、2年度も日本海新聞を議会として購読することで決着をつけさせてもらってもよいか。
		※「はい」の声あり。
	田中委員長	ほかに。
	杉村委員	なし。
	田中委員長	局長からあった、委員会等会議録の作成に関わって、今マイク設備をどうするか研究中ということだが、議長の意向を伺いたい。システム代が必要になるが、有効活用するためには、これは私も音声を聞いたが、言語明瞭な録音ができることが不可欠だ。そのためには、マイク設備をどうするかということが、委員会運営のスムーズさを確保するということも含めて、一つの中心問題になる。それを研究中ということだが、いつ頃までを目途にやるのか。
	足立議長	私の意見は、基本的に言うておくが、何であろうと、どういう設備であろうと、必要なことはきちんとしておくべきだと思っている。これからの人のためにも、今の我々のためにも、必要なことはきちんとしておくべきだ。職員であろうと、議会であろうと。
	杉村委員	私の感触では、今事務局長が進めておられる検討はそれなりの設備費用が相当かかると思う。言語明瞭な録音をしていくとなると。 それで、そもそもの発端としては、特別委員会等がいくつか設置されて議論がある中で、現在の事務局体制としては、非常に苦しいのではないかとこの感触を私は持っていたので、現在の形であったとしても、議長の言われる「入れるべきものを入れる」ということも分かるが、今の状態がずっと続くこと自体が現在の事

		<p>事務局に対して厳しい部分があるならば、今の録音の仕方であったとしても、臨時的な方とか、もしくは外部でも補完していく措置は、私の気持ちとしてはせめて今年度の補正でも、もしくは、新年度の当初でもしておいて、「マイク設備等にこれくらいかかりますよ。どう判断しましょうか。」ということまでのつなぎの部分というあたりを考えるべきではないかと思っている。現在の会議録の作成が、開催されてからどれくらいの期間でできているか分からないが、やはり会議の中身は生ものなので、なるべく早くに、見ようとする人があるなら見れる状態にしていかなければならないものが、2か月、3か月になると、中身としては、「もう、いいや」ということになりかねないので、今の状態を、事務局の負担になっている部分について、ほかの対策をすべきという印象を持っている。</p>
	足立議長	<p>私が言っているのは、基本的に人事異動があるからだ。局長も、どの職員も併せて異動ということを抱えている。現状では、やはり設備だけは、どなたが来られても、ベテランであろうとなかろうと、きちんとしたことが短期間でできる体制だけは整えておきたいために言っているのもあって、人的に賄うことは簡単だろうが、一時の費用よりも長期の費用を極力控える方法を考えた場合には、整備投資が一番よいのではないかというのが私の判断だ。皆さんはどう思われるか。</p>
	田中委員長	<p>今、杉村委員から出ているのは、つなぎ的な措置として、録音を起こして文字にする手を取りあえず考えるほうがよいのではないかという話だ。</p> <p>これは、例えば今の段階で予算化しないと無理な話なのか。</p>
	鈴木議会事務局長	<p>人的補助員を雇うにしても、音声データを渡して起こしてもらうにしても、予算的措置が必要になってくる。</p>
	田中委員長	<p>予算措置は必要だが、補正とかでも対応できる話か。</p>
	鈴木議会事務局長	<p>必要であれば。</p>
	足立議長	<p>要は、事務局が補助を必要としているかだ。そうであれば考えなければならないし。</p>
	柳副議長	<p>確かにかなりの負担があると思う。どんなかなと思う。ある程度方向が見えるまで、できれば補助が必要だと思う。局長、どんなものか。</p>
	鈴木議会事務局長	<p>テープ起こしをどのくらいの期間でするかということになってくると思うが、基本的には長くても3か月を目途にさせてもらっているところだ。特別委員会も一時的なものという気はしているが、議会改革の関係は長期になると思っている。</p>
	田中委員長	<p>短期になるのだろうが、特定の人はずっと仕事をしてもらうような、臨時的な雇用みたいなことになるのか、どこかに出せばできる話なのか、3か月をもっと短期にするとか、どんなことが必要なのかを算定してもらいたい。今日のこの場では結論が出せない</p>

		いので。
	足立議長	ただ、長い歴史の中で、特別委員会等ができたりして業務量が上がっているかもしれないが、記憶の中ではない。そうであるなら、それなりのきちんとした理由がなければ、量的なものもこれだからときちんと示してもらわないと、予算的にも頼めない。
	田中委員長	それはやろう。
	足立議長	ただ、基本的に録音の方向で進むなら、方針だけはある程度、この委員会だけででも持っておいてもらわないといけない。また全体は全体だ。
	田中委員長	録音はよいのではないか。
	柳副議長	どういった機器を導入するかは別にして、それは全員一致だと思う。
	足立議長	局長、その方向なので、もう少しスピード感を上げよう。えら いだろうけど。
	田中委員長	録音の方向でいくということと、今までよりスピードを上げて 検討することが一つと、つなが的になるわけだが、人力がどれく らい必要か、根拠となるものも含めて検討してもらおうというこ とを二つ確認させてもらって、今日は終わることによいか。大変だ けど、その方向でやろう。よろしいか。
	皆	よい。
	田中委員長	では、その他はなしにするが、よろしいか。
	皆	よい。
閉会	田中委員長	以上で終了する。 *起立、礼 11時48分 閉会

上記のとおり会議の次第を記録し
これを証するため、ここに署名する

議会運営委員長

田中克美

